

2019 年度 教員免許状 更新講習 募集要項



武蔵野美術大学

教員免許状更新講習

教員免許状更新制は、平成 19 年 6 月の改正教育職員免許法の成立により、平成 21 年 4 月 1 日から導入されました。その時々で求められる教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すために行われています。

修了確認期限内に 30 時間以上（うち「必修領域」「選択必修領域」を各 6 時間以上、「選択領域」を 18 時間以上）の免許状更新講習の受講し修了することが必要です。

受講資格

以下のア～ウのすべての要件を満たす方

ア：以下のいずれかの免許状を有する方

- ・小学校免許
- ・中学校（美術）免許
- ・高等学校（美術、工芸）免許
- ※相当する特別支援学校教員を含む

イ：以下のいずれかに該当する方

- ・現職教員
- ・教員採用内定者
- ・教育委員会や学校法人などが作成した臨時任用・非常勤教員リストに登載されている者
- ・教員勤務経験者

ウ：《新免許状所持者》免許状記載の満了日より 2 年 2 ヶ月前の方

《旧免許状所持者》修了確認期限が 2020（平成 32）年 3 月 31 日

または 2021（平成 33）年 3 月 31 日の方

（第 10 グループまたは第 1 グループの方）下記表をご確認下さい。

《旧免許状所持者修了確認期限 確認表》

該当区分	修了確認期限	2020（平成 32）年 3 月 31 日	2021（平成 33）年 3 月 31 日
生年月日		昭和 59 年 4 月 2 日～	昭和 50 年 4 月 2 日～ 昭和 51 年 4 月 1 日
		昭和 49 年 4 月 2 日～ 昭和 50 年 4 月 1 日	昭和 40 年 4 月 2 日～ 昭和 41 年 4 月 1 日
		昭和 39 年 4 月 2 日～ 昭和 40 年 4 月 1 日	昭和 30 年 4 月 2 日～ 昭和 31 年 4 月 1 日
更新講習受講期間		平成 30 年 2 月 1 日～ 平成 32 年 1 月 31 日	平成 31 年 2 月 1 日～ 平成 33 年 1 月 31 日

* 上記の年齢該当区分に当てはまらない方でも受講できる場合があります。別途ご連絡ください。

* 文部科学省HPにて修了確認期限がチェックできます。本年度の受講対象者であるかご確認ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/003/index.htm

開設講習の概要

本学では「必修領域」「選択必修領域」「選択領域」の3領域に対し、それぞれ下表のような講習を開設しています。各講習とも「**対面講習**」「**通信講習**」の二つの形態で開講しています。

各領域を学習後に、それぞれ修了認定試験を受験・合格すれば本学での講習は修了となります。

「**対面講習**」▶該当期間に、本学鷹の台キャンパスにて講義・修了認定試験を受け、合格者は修了。

「**通信講習**」▶自宅に届いた教材を用いて学習後、レポート課題を作成・提出。

レポート合格後、修了認定試験（全国10会場）を受け、合格者は修了。

領域	講座名	対面講習		通信講習	
		日程	定員	日程	定員
必修領域 6時間相当	教育の最新事情	7月23日	120名	4月1日～ (11月最終試験)	—
選択必修領域 6時間相当	A 教育相談といじめ・不登校	7月24日	60名	4月1日～ (11月最終試験)	—
	B 学習指導要領とアクティブ・ラーニングの動向	7月24日	60名	4月1日～ (11月最終試験)	—
選択領域 18時間相当	美術教育実践研究	[実技] 7月25日、26日	7クラス 各17名	4月1日～ (11月最終試験)	—
		[講義] 7月27日			

受講コース・受講料

受講者は以下のⅠ～Ⅳコースから一つを選択し、3領域をセットで受講してください。

* 「選択必修領域」はいずれのコースでも **A** **B** どちらかを選択して受講。

* Ⅰ・Ⅱコースの場合、「選択領域」実技講習は7クラスより一つを選択して受講。

* 各講習の詳細等は p.5-7 をご参照ください。

【Ⅰコース】	受講料 ¥50,000
必修領域	対面講習
選択必修領域	対面講習
選択領域	対面講習

【Ⅱコース】	受講料 ¥50,000
必修領域	通信講習
選択必修領域	通信講習
選択領域	対面講習

【Ⅲコース】	受講料 ¥30,000
必修領域	対面講習
選択必修領域	対面講習
選択領域	通信講習

【Ⅳコース】	受講料 ¥30,000
必修領域	通信講習
選択必修領域	通信講習
選択領域	通信講習

申込み手続き [郵送のみ]

以下の①～③の書類に必要事項を記入・捺印のうえ、④を添えて下記送付先までお送りください。

- ① 2019 年度教員免許状更新講習受講申込書＋受講希望コース記入用紙
- ② プロフィールシート（A4・両面、顔写真貼付）
- ③ 更新講習受講対象者証明書
- ④ 顔写真 2 枚（1 枚は②プロフィールシートへ貼付）

※②へ貼付したものと同じ顔写真をもう 1 枚同封してください。

申込み書類送付先 〒180-8566 東京都武蔵野市吉祥寺東町 3-3-7 武蔵野美術大学 更新講習係宛
--

*封筒の表に「**更新講習申込書類在中**」と朱字で記載してください。

*郵送いただいた書類は返却いたしません。

*申込書記入例を参照し、記載事項・捺印等の漏れがないように注意してください。

*申込者が少数の場合は開講しないこともあります。

*監督者委託型修了認定試験を希望する方は、申込書の記載欄へ印をつけてください。
必要書類を送付します。

I・II・IIIコース申込み期間

2019年2月19日(火)
～5月31日(金)
*当日消印有効

- *19日以降先着順、定員になり次第募集締切り
- *同日に定員を超える申込みがあった場合は、
抽選にて振り分け

IVコース申込み期間

2019年2月19日(火)
～7月31日(水)
*当日消印有効

受講許可通知について

受講の可否については、書類受理後、順次郵送にて通知します。

対面講習については定員を設けています（選択必修領域のA・Bクラスは各 60 名、選択領域のA～Gクラスは各 17 名）。第一希望のクラスが定員に達している場合は、第二希望のクラスでの受講となりますのでご了承ください。

受講料の支払いについて

受講許可通知と共に受講料振込票を大学より郵送します。所定の期日までに、金融機関窓口またはATMにて受講料を納入してください。大学窓口での受講料の支払いはできません。

申請～講習のながれ



レポート合格後に受験する修了認定試験 (60 分) にて評価します。修了認定試験は、年間 5 回の受験機会があります。日程・会場は以下から選択して受験が可能です。

【日程】
 6月2日(日)、7月15日(月・祝)、8月25日(日)、
 10月14日(月・祝)、11月23日(土・祝)

【試験時間】
 必修領域 12:30～13:30
 選択必修領域 13:45～14:45
 選択領域 15:00～16:00

【会場】 全国 10 会場
 東京、札幌、仙台、横浜、名古屋、
 大阪、広島、福岡、鹿児島、沖縄

通信講習



4/1 (月) から提出可能

※レポートが不合格だった場合、レポート提出期限までは再提出が可能です。
 ※修了認定試験が不合格だった場合、最終回まで再受験が可能です。

監督者委託型修了認定試験 10月14日(月・祝)
 ※再受験または特別に支障のある場合は11/23(土・祝)

山間部離島へき地などの特別に交通が困難な場合は、所属する学校長等に監督を委託し「監督者委託型修了認定試験」を実施します。所属学校長等から監督者になることへの了解と、学校を会場とすることについて承諾を受ける必要があります。希望者は、申込書の記載欄へ印をつけてください。

【対面講習 スケジュール】

	必修領域	選択必修領域	選択領域[実技]		選択領域[講義]
	7/23 (火)	7/24 (水)	7/25 (木)	7/26 (金)	7/27 (土)
1 限	9:00～10:30	9:00～10:30	9:00～10:30	9:00～10:30	9:00～10:30
2 限	10:40～12:10	10:40～12:10	10:40～12:10	10:40～12:10	10:40～12:10
3 限	13:00～15:00	13:00～15:00	13:00～14:30	13:00～14:30	13:00～15:00
4 限	15:10～16:10 (修了認定試験)	15:10～16:10 (修了認定試験)	14:40～16:10	14:40～16:10 (講評)	15:10～16:10 (修了認定試験)

必修領域・選択必修領域では、最終時限に行う修了認定試験 (60 分) にて評価します。
 選択領域では、講評および最終時限に行う修了認定試験 (60 分) にて総合的に評価します。

コース・講座紹介

必修領域

教育の最新事情

現代の教育事情全般を内容として、学校教育の現場が抱えている課題や問題について論じます。

選択必修領域

A B どちらかを選択し、学習します。

A 教育相談と いじめ・不登校

教育相談のあり方について、教育現場の大きな課題であるいじめと不登校を焦点に論じます。

B 学習指導要領と アクティブ・ラーニング の動向

現行の学習指導要領と改訂の動向を踏まえ、特にアクティブ・ラーニングと造形ワークショップの動向に注目した内容です。

下記よりコースを
お選びください!!

I コース

対面講習

担当講師による講義を受け、講義最終時間に修了認定試験を受験します。

7/23
(火)

対面講習

担当講師による講義を受け、講義最終時間に修了認定試験を受験します。

7/24
(水)

II コース

通信講習

テキストをもとに学習し、レポートをまとめます。添削指導を経て、修了認定試験を受験します。

通信講習

テキストをもとに学習し、レポートをまとめます。添削指導を経て、修了認定試験を受験します。

III コース

対面講習

担当講師による講義を受け、講義最終時間に修了認定試験を受験します。

7/23
(火)

対面講習

担当講師による講義を受け、講義最終時間に修了認定試験を受験します。

7/24
(水)

IV コース

通信講習

テキストをもとに学習し、レポートをまとめます。添削指導を経て、修了認定試験を受験します。

通信講習

テキストをもとに学習し、レポートをまとめます。添削指導を経て、修了認定試験を受験します。

選択領域

A 絵画表現クラス

絵画の基礎的な表現による制作実習を行います。



B 彫刻クラス

人体モデル頭部塑像を通して、自然の観察を中心に、彫刻における形体や空間について実習します。



C グラフィックデザインクラス

「文字とデザイン」言葉や情報の伝達にかかせない「文字、活字(フォント)」の基本的な知識と、その取り扱い方の基礎を学びます。



D テキスタイルクラス

染め(友禅染)の基礎的な技法による制作実習を行います。



E ガラスクラス

ステンドグラスの基礎的な技法による立体の制作実習を行います。



F 映像表現クラス

脳内に浮かぶイメージを時間軸上に造形する「アニメーション」の実習です。必要なのは大量の絵を描きまくる意欲のみ。編集ソフトの知識経験は不要です。



G 鑑賞教育とミュージアムクラス

近年、重要性を増す「鑑賞教育」と、学校教育にとって重要&リソースとなるミュージアムの活用について、講義と演習を通して学びます。



7/25
(木)

7/26
(金)

7/27
(土)

対面講習 【実技講習】

上記 A~G7クラスより受講したい1クラスを選択してください。
2日間にわたって実技講習を行い、最終日に講評を行います。

&

対面講習 【講義講習】

美術教育実践研究
実習で学んだ造形要素を生かした教育計画の作成を目標として「教育方法開発」「題材開発」「教材開発」「連携開発」について講義を受け、最終時間に修了認定試験を受験します。

通信講習

美術教育実践研究

「教育方法開発」「題材開発」「教材開発」「連携開発」の4領域からなる「美術教育実践研究」全般を通信授業で行います。
テキストの学習をもとに、授業実践に即した学習指導計画やレポートをまとめます。添削指導を経て、修了認定試験を受験します。

担当講師紹介

<p>伊東 毅 <i>Ito Takeshi</i> 必修 教職課程教授 選択必修 A</p> <p>[専門分野] 教育学（教育哲学・いじめなどの教育問題論）</p> <p>いじめなどの教育問題についての論文多数。道徳副読本や教師用指導書の編集委員などをつとめた経験を持つ。</p>	<p>高橋 陽一 <i>Takahashi Yoichi</i> 必修 教職課程教授 選択必修 B</p> <p>[専門分野] 日本教育史学（宗教教育、国学）</p> <p>公益財団法人私立大学通信教育協会理事長として通信教育の普及に努め、免許状更新講習のプログラム開発にあたる。</p>
<p>山本 靖久 <i>Yamamoto Yasuhisa</i> 共通絵画研究室教授 選択 絵画表現</p> <p>[専門分野] 絵画</p> <p>現代の物質や情報などの「豊かさ」に対する反問譜として、精神的にも肉体的にも「豊か」であったであろう原初の時代の情景を平面作品、オブジェで制作。個展・企画展にて制作発表多数。主体美術協会会員、日本美術家連盟会員</p>	<p>上楽 寛 <i>Joraku Hiroshi</i> 共通絵画研究室非常勤講師 選択 絵画表現</p> <p>[専門分野] 絵画</p> <p>人間を含めての広い意味での「自然」の様々な在り方をテーマに平面作品を制作。 個展・グループ展を中心に作発表多数</p>
<p>脇谷 徹 <i>Wakiya Toru</i> 共通彫塑研究室教授 選択 彫刻</p> <p>[専門分野] 彫刻</p> <p>主なコレクションとして小平市小平消防署、江戸川区役所、信濃デッサン館、阪神甲子園球場 他個展多数</p>	<p>櫻井 かえで <i>Sakurai Kaede</i> 共通彫塑研究室客員教授 選択 彫刻</p> <p>[専門分野] 彫刻</p> <p>木やテラコッタを素材とした彫刻作品を制作。01年からギャラリーせいほうでの個展をメインに 17 年佐久市立近代美術館、日本橋三越本店、越後妻有アートトリエンナーレ他で作品発表</p>
<p>杉下 城司 <i>Sugishita Joji</i> 選択 グラフィックデザイン 視覚伝達デザイン学科/デザイン情報学科非常勤講師</p> <p>[専門分野] グラフィックデザイン及びタイポグラフィ</p> <p>主なデザインワーク：銀座和光ビジュアルアイデンティティ「菅井汲展」「重森三玲の庭展」「珠玉のヨーロッパ油彩画展」など美術館ポスター・図録。「平野富二生誕百二十年記念祭」ポスター、記録誌。『タイポグラフィ学会誌 01, 02, 03 号』 講演：「サンセリフ体の潮流」「ヨーロッパ絵画とタイポグラフィ」「ローマンサンセリフ」等</p>	<p>鈴木 純子 <i>Suzuki Junko</i> 選択 テキスタイル 工芸工業デザイン学科准教授</p> <p>[専門分野] テキスタイルアート・デザインにおける表現研究</p> <p>99 年「第 6 回 国際テキスタイルコンペティション' 99-京都-」技術賞受賞、 02 年「横浜にぎわい座」3・4 階ホールホワイエ タペストリー制作、 16 年 杭州ファイバーアートトリエンナーレ(中国) その他、国内外での個展・グループ展多数</p>

<p>白石 眞弓 <i>Shiraishi Mayumi</i> <small>工芸工業デザイン学科特別講師</small> 選択 テキスタイル</p> <p>[専門分野]現代友禅・そこから生まれるアート</p> <p>07年「第34回青枢展」外務大臣賞受賞、 08年「第35回青枢展」青枢大賞受賞 その他受賞・展示等、様々な場で活躍</p>	<p>大村 俊二 <i>Omura Shunji</i> <small>工芸工業デザイン学科教授</small> 選択 ガラス</p> <p>[専門分野]ガラスにおける造形研究</p> <p>86年「Design Centre of London」ガラス部門デザイン賞受賞 99年「第2回現代ガラスの美展」大賞受賞 00年 International Glass Symposium 2000 招待制作(チェコ) 17年 Pilchuck Glass School Session4「Materiality」講師 個展・グループ展等多数</p>
<p>黒坂 圭太 <i>Kurosaka Keita</i> <small>映像学科教授</small> 選択 映像表現</p> <p>[専門分野]アニメーション</p> <p>鉛筆画の手法で「DIR EN GREY」のミュージックビデオ等を手掛ける。アヌシー国際アニメーション映画祭はじめ様々な映像祭で受賞。初の長編アニメーション映画『緑子/MIDORI-KO』(2010)は世界20か国以上で上映。 即興によるライブ・ドローイングの活動も行っている。</p>	<p>原田 浩 <i>Harada Hiroshi</i> <small>映像学科非常勤講師</small> 選択 映像表現</p> <p>[専門分野]アニメーション</p> <p>商業アニメーション・広告・映像音声制作・テーマパークなどの仕事の傍ら個人作品の制作を続ける。フランス・カナダ・ドイツ・スイス・チェコ・イギリス・北京・香港など14カ国の映画祭で上映。近年はテレビ東京系「ふるさと再生日本の昔ばなし」で15本の演出・美術等を担当。</p>
<p>杉浦 幸子 <i>Sugiura Sachiko</i> <small>芸術文化学科教授</small> 選択 鑑賞教育とミゼオロジー</p> <p>[専門分野]ミュージアムにおける教育活動、特に鑑賞教育、アート・マネジメント</p> <p>01年 第1回横浜トリエンナーレ教育プログラム担当、 02~04年 森美術館パブリックプログラムキュレーター、 05~11年 京都造形芸術大学プログラムコーディネーター</p>	<p>春原 史寛 <i>Sunohara Fumihiko</i> <small>芸術文化学科准教授</small> 選択 鑑賞教育とミゼオロジー</p> <p>[専門分野]近代美術史、ミゼオロジー、美術教育(鑑賞教育)</p> <p>01-06年 大川美術館学芸員、 09-13年 山梨県立美術館・山梨県立博物館学芸員、 13-18年 群馬大学教育学部准教授</p>
<p>大坪 圭輔 <i>Otsubo Keisuke</i> <small>教職課程教授</small> 選択 美術教育実践研究</p> <p>[専門分野]美術・工芸教育法、教育方法</p> <p>公立中・高等学校や国立大学附属中・高等学校で美術教育にあたり、現在は美術教育実践研究に取り組むとともに、中学校美術科教科書編修なども担当している。</p>	<p>三澤 一実 <i>Misawa Kazumi</i> <small>教職課程教授</small> 選択 美術教育実践研究</p> <p>[専門分野]造形美術教育・鑑賞</p> <p>学校と美術館の連携及び美術館の教育普及活動の実践、また校種間連携の授業や題材開発などにも関わる。</p>
<p>北沢 昌代 <i>Kitazawa Masayo</i> 選択 美術教育 実践研究 <small>教職課程非常勤講師、聖徳大学短期大学部准教授</small></p> <p>[専門分野]美術教育法・教育方法</p> <p>私立中・高等学校で美術教育にあたり、現在は幼稚園教諭・保育士養成、小学校教員養成課程等にも携わり、校種間を通じた美術教育に関わる。</p>	

対面講習 受講者の声

*昨年度、本学で対面講習を受講された皆様の受講後の感想です。

絵画表現クラスでは、巨大な樹根のデッサンを行いました。美術が専門ではない自分にとって、今までに描いたことがない大きさ、迫力をもったモチーフに圧倒され、描くことができるのか不安がありました。先生方からアドバイスを適宜いただき、描き進めていくうちに「自分らしく楽しく描きたい」という思いがでてきました。他の受講者の方の絵を見るのも大変勉強になり、どの作品を見ても同じ描き方が一つもないことに驚きつつ、その人のもつ考え方や見方が大事だと思いました。

また、実技講習最終日には、自分の作品を紹介する時間があり、一人一人の作品に対する思いを聞くことができ胸が熱くなりました。

今回、このような恵まれた環境で作品と向き合えたこと、また自分を見つめ直せたことに感謝しています。今後に繋がる良い経験になりました。

橋本 奈緒美 さん（蘇州日本人学校 教諭）
【絵画表現クラス 受講】

選択必修の講習で、いじめと不登校についての講習を受けました。多くのお子さんがいじめを受けたことで苦しみ、解決出来ずに不登校を選択しているのは事実ですし、しっかり考えていかなければならない問題だと日々感じております。過去の統計や実例を挙げ、様々な角度からいじめについて考えていける講習でしたので、わかりやすく、とても有意義な時間でした。学校スタッフとの連携と、子どもひとりひとりの声を逃さずに聞くことがいかに重要か、再確認しました。

また実技講習では、彫刻を選びました。生徒として授業を受け、授業を受ける側の気持ちを思い出しました。また先生方から、じっくり時間をかけ一つの作品に向き合う姿勢を教えていただき、今後の授業で生徒たちにも伝えていきたいと思いました。

五日間、ありがとうございました。

田中 翔子 さん（東京シュールレ葛飾中学校 講師）
【彫刻クラス 受講】

グラフィックデザインクラスでは、活字の展覧会用ポスター制作を行った。

私は免許状更新が来たときはぜひ！美大でデザインの授業を受けに行きたいと思い大阪から参加した。

講習内容は、講義と実技の2部構成で、さまざまな活字書体の歴史や製作者の考えや思い、日本と海外の書体の違いなどを学び、実技講習では4つの活字の中から1つ選んで（作者と活字の成り立ちや活字の特徴を学んでから）文字組みだけで展覧会用のポスターを制作した。夢中になって制作していたので、あっという間に実技講習が終わった印象を受けた。その際（制作時）に先生から適切なアドバイスを頂いたことや、文字組みの表現の難しさや制作をする面白さを改めて感じることができた。とてもいい勉強になった（今回の講習で感じたことや学んだことを、今後の授業等に活かしていきたい）。武蔵野美術大学を受講して本当に良かった、ありがとうございました。

権代 正和 さん（大阪府立港南造形高等学校 講師）
【グラフィックデザインクラス 受講】

大学生のころに戻ったようでした。学ぶってたのしい！初めて絵を習ったときのようなドキドキがあり、気がつくとも時間を忘れて制作していました。

実技講習は、テキストスタイルクラスで友禅染を行いました。もちろん、すぐ上手にはいかないのですが、試行錯誤する中で普段の勤務で忘れていた制作の楽しさや達成感などを改めて実感しました。課題の構成や先生方のお話し物などいたるところに工夫がなされていて、ワクワクの絶えない実技講習でした。

また、制作や講習を通し他校の先生とも交流を深めることができ、日々の実践や苦労話など生きた情報をたくさん聞くことができました。ムサビで受講して本当に良かったと思います。生徒の前で自信をもって「美術って素晴らしい」と伝えることができます。

村山 聡 さん（札幌市立山の手養護学校 高等部 教諭）
【テキストスタイルクラス 受講】

『武蔵美なら免許状更新でガラスを受講出来るよ。』その話を聞いて心が踊った。今まで扱った事もなく、ガラスという素材に憧れがあった。やってみたい！

事前に届いた資料にはテーマや何を作るのか等書かれていたので、安心して授業に参加。教室を見渡すと見慣れない道具、重なる板ガラスが目に入り、潤沢な制作環境に気持ちが高ぶる。

光をテーマにした二日間の授業は必死そのもの。でもそれが楽しかった。周囲の人達も手を休めることなく制作に向き合い、ギリギリまで粘り、より良い作品を作ろうと教室全体に高揚感を与えていた。

『時間が来ました。』その言葉を合図に作品の講評が始まる。情熱を傾けて作られた彩り豊かな作品を通して受講生一人一人の想いが心に響く。作品を作る喜び、そしてそれを後押しする先生の暖かいご指導。ここで得た学びや気づきをヒントに、今後の教育活動に新たな視点を持って取り組んで行きたいと思う。

塚本 直子 さん（芸術工芸高等専修学校 講師）
【ガラスクラス 受講】

アニメーションの原画を手でひたすら描くのはとても地道な作業でしたが、自分の描いた絵が動き出した瞬間は、大きな感動を味わうことができました。思い描いた通りに動いてくれた部分や、そうでない部分もあり、絵が動き出してからは新しい発見の連続でした。

作品の講評では、黒坂先生、原田先生が私たち受講者の作品の良い部分を多角的な視点で上手にすくってください、映像作品に対する私たちの見方を広げてくださいました。受講者の作品は、作者のバックボーンが色濃く表れているようで、非常に興味深いものばかりでした。

普段は授業で制作の指導をするばかりで、自分が制作することから遠ざかっていましたが、「いざというときに、抜ける刀を常に差している」ことの大切さに改めて気付かされました。創造者としての感性は、常に研ぎ続けていきたいと思えます。

山岸 啓介 さん（さいたま市立指扇中学校 教諭）
【映像表現クラス 受講】

大学を卒業して10年、先生方と共に考えつくる時間はとても有意義だった。

私は小学校での鑑賞授業へ生かしたいと思い「ミュゼオロジーと鑑賞」を受講した。杉浦先生からは国内外で行われている幾つかの鑑賞方法を教えて頂いた。武蔵野美術大学の美術館でのグループワークは、貴重な作品を観る機会となった。異なる作品の見方をグループで共有することで作品への理解を深めることに繋がった。

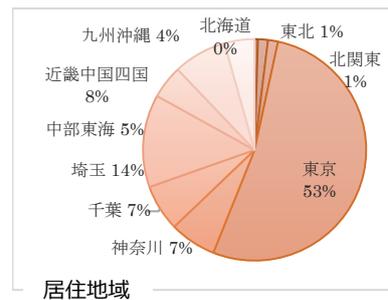
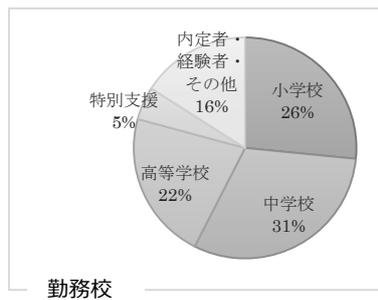
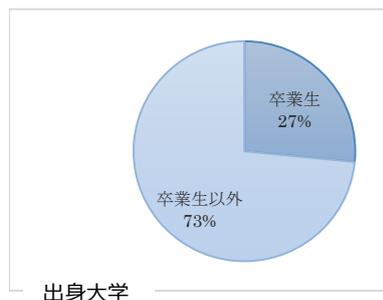
2日目、新見先生のご指導を受け、実際に展示の実践を繰り返した。次第に作品と作品の距離、空間全体の配慮、作家の考えや思いなど自分の意識が変わってきた。

この講習を通して、鑑賞授業の際は児童へどのように導入し声掛けをするか考えていた。自校の授業で生かしていく。

三浦 麻記 さん（足立区立西新井小学校 教諭）
【ミュゼオロジーと鑑賞活動クラス 受講】

* 2019年度より「鑑賞教育とミュゼオロジー」クラスに改称

* 参考 * 平成30年度受講申込み者の 出身大学・勤務校・居住地域の区分データです。



お問合せ先

武蔵野美術大学 更新講習係 0422-22-8562

〒180-8566 東京都武蔵野市吉祥寺東町 3-3-7

FAX 0422-22-8060 E-mail cc-koshin@musabi.ac.jp